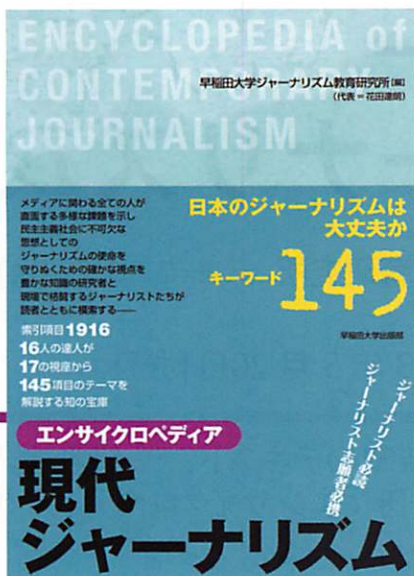


『朝日新聞』，地方紙各紙（共同通信配信）で紹介！



エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム

早稲田大学ジャーナリズム教育研究所（代表=花田達朗）[編]
A 5判 418 ページ
定価：3,780 円（税込）（2013 年 4 月 1 日刊行）

日本のジャーナリズムは大丈夫か。16 人の達人が 145 項目のテーマを解説する知の宝庫。索引項目数 1916。ジャーナリスト必読，ジャーナリスト志願者必携。

収録項目

●Part 1 画期 自由民権運動／白虹事件／昭和 17 年（新聞統合）／新聞民主化運動／沖縄／7 社共同宣言／TBS 成田事件／ロッキード事件／リクルート事件／阪神淡路大震災／中東／9.11／東日本大震災／フクシマ ●Part 2 理論と規範 自由主義理論／公共圏／パブリック・サービス／客観性／客観報道／フェアネスとインパシャリティ／不偏不党／社会的責任理論／アカウンタビリティ ●Part 3 倫理 倫理規範／良心条項／内部的メディアの自由／利害の衝突／内部告発／オンブズマン／第三者機関／編集権声明／NHK-ETV2001 番組改変事件 ●Part 4 職能 職業としてのジャーナリスト／ウォッチドッグ／証言拒否権／ジャーナリスト教育／職能組合／職能団体／企業ジャーナリスト／フリーランス／女性記者／オルタナティブ・ジャーナリスト／市民活動とメディア ●Part 5 実践 ニュース・バリュー／スクープ／ゲートキーピング／アジェンダ・セッティング／公人／私人／社会部／デスク／警察取材／裏金取材／志布志事件 ●Part 6 表現形式 文体／ニュー・ジャーナリズム／キャンペーン報道／情報源／ステレオタイプ／タブロイド化／やらせ／虚報／ドキュメンタリー／映像 ●Part 7 様式 調査報道／パブリック・ジャーナリズム／インフォテインメント／CAJ／ブログ・ジャーナリズム／オンライン・ジャーナリズム／ソーシャル・メディア／ソーシャル・ネットワーキング・サービス／ニコニコ動画／ウィキリークス ●Part 8 実態 記者クラブ制度／自主規制／集团的過熱取材／日刊新愛媛事件／首相指南書事件／チェックブック・ジャーナリズム／盗作／剽窃 ●Part 9 組織 通信社／全国紙／地方紙／系列／ネットワーク／日本新聞協会／日本民間放送連盟／日本放送協会 ●Part 10 制度 検閲／表現の自由／プレス／電波三法／著作権／アクセス権／反論権／情報公開制／個人情報保護法／名誉／プライバシー／秘密と公開／公／私／タブー／権力 ●Part 11 ポリティカル・エコノミー 市場／イデオロギー／グローバリゼーション／メディア・コングロマリット／マスメディアの集中排除原則／社内株制度／再販制／メディア・イベント ●Part 12 技術 印刷革命／ENG／SNG／デジタル化／放送と通信の融合／電子新聞／WWW ●Part 13 外部環境 ナショナリズム／政治とジャーナリズム／外交とジャーナリズム／戦争とジャーナリズム／プロパガンダ／広報と危機管理／広報と情報操作／東京電力の「情報隠し」／ジャーナリズムへのテロル／対メディア訴訟 ●Part 14 受け手 公衆（パブリック）／世論／世論調査／記憶／投書／投稿／ジャーナリズム・リテラシー／NIE／NPO／NGO／メディア批判 ●Part 15 ヒューマン・ライツ ジェンダー／少数者（マイノリティ／エスニシティ）／差別／偏見／被疑者／冤罪／犯罪被害者／自己決定権 ●Part 16 訴訟 博多駅テレビフィルム提出命令事件／西山記者事件／『月刊ペン』事件／『北方ジャーナル』事件／記者クラブ事件／通信社配信サービスの抗弁 ●Part 17 遺産 個人紙／個人誌／石橋湛山と小日本主義／『思想の科学』とその同人たち／『暮しの手帖』と花森安治／政商としての正力松太郎／『文藝春秋』1974 年 11 月号と立花隆

----- 切り取り線（最寄りの書店・生協にお渡しください） -----

エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム （ 冊）

書店名・番線

ISBN 978-4-657-13003-7 C1036 定価 3780 円（本体 3600 円＋税）

お名前

お電話番号

ご住所

株式会社早稲田大学出版部

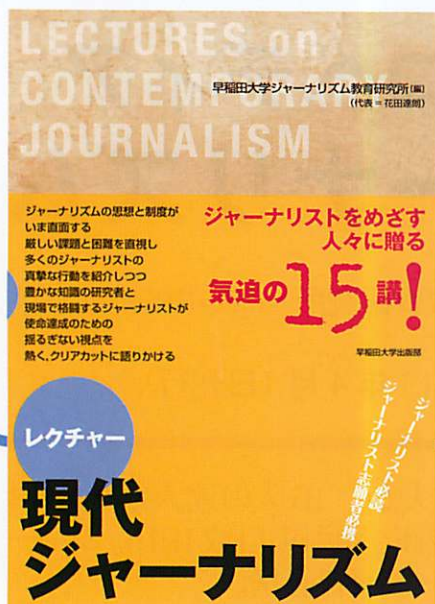
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-1-7

TEL 03-3203-1551 <http://www.waseda-up.co.jp/>



FAX（書店様・生協様用）03-3207-0406

民主主義、わたしたちを守るべきジャーナリズムの使命を考える



レクチャー 現代ジャーナリズム

早稲田大学ジャーナリズム教育研究所 (代表=花田達朗) [編]
A 5判 314ページ
定価：2,730円 (税込) (2013年5月20日刊行)

ジャーナリストをめざす人々待望のテキスト、一般社会人必携の教養書。2013年4月刊「エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム」の姉妹編。

内容紹介

ジャーナリズムの思想と制度と現実を示すために、その直面する厳しい課題と重畳する困難を直視し、多くのジャーナリストの真摯な行動を紹介しつつ、豊かな知識の学究と現場で格闘する記者たちが、いま問われる使命達成のための揺るぎない視点を、クリアカットに提示する。熱血15講。

目次

第1部 ジャーナリズムの現在

- 第1講 ジャーナリストという仕事——何を・誰のために報せるか (野中 章弘)
- 第2講 戦争とジャーナリズム——戦場＝現場で何が起きているか (野中 章弘)
- 第3講 政治とジャーナリズム——権力からの自立 (野中 章弘)

第2部 ジャーナリズムの原理と両義的実態

- 第4講 ism としてのジャーナリズム——観察者の思想 (花田 達朗)
- 第5講 ジャーナリズムの社会思想——市民社会と公共圏 (花田 達朗)
- 第6講 環境変化と自己革新——機能再生のために (花田 達朗)

第3部 「言論の自由」とジャーナリズム

- 第7講 ジャーナリズム前史——言論の自由を求めた人々 (別府 三奈子)
- 第8講 米国のジャーナリズム——理念の制度化と逸脱・改善の歴史 (別府 三奈子)
- 第9講 日本における「報道」の歩み——システムの連続とジャーナリズムの断層 (別府 三奈子)

第4部 ジャーナリストの倫理

- 第10講 ジャーナリストの倫理とは何か——権力との対峙 (大石 泰彦)
- 第11講 ジャーナリストの日常の倫理——「犯罪報道の倫理」と「取材源との関係」 (大石 泰彦)
- 第12講 ジャーナリズムの制度の倫理——ジャーナリストの自由を求めて (大石 泰彦)

第5部 ジャーナリズムを生きる

- 第13講 組織の中で、されど「個」として——新聞社と新聞記者 (依光 隆明)
- 第14講 当事者の声と姿に学ぶ——相手の身になって問題意識を磨く (吉田 敏浩)
- 第15講 「女性記者」の視点——マイノリティへの共感 (山城 紀子)

----- 切り取り線 (最寄りの書店・生協にお渡しください) -----

レクチャー 現代ジャーナリズム (冊)

書店名・番線

ISBN 978-4-657-13007-5 C1036 定価 2730 円 (本体 2600 円+税)

お名前

お電話番号

ご住所

株式会社早稲田大学出版部

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-1-7

TEL 03-3203-1551 <http://www.waseda-up.co.jp/>

FAX (書店様・生協様用) 03-3207-0406